

桶川市の概要

桶川市は、埼玉県のほぼ中央部、都心から約 40km 圏に位置し、周囲は 4 市 3 町に接している。古くは中山道の宿場町であり、麦・さつまいも・紅花などの農産物の集散地として栄えた。昭和 40 年代に急速的に都市化が進行し、昭和 45 年 11 月には県下 31 番目の市として「桶川市」が誕生、その後も首都近郊の住宅都市として発展している。

市域は東西約 8km、南北約 4km で面積は 25.26k m²。地勢は、部分的に台地があるものの概ね平坦地である。平成 15 年 2 月 1 日現在、市の人口は 74,744 人、世帯数 26,573 世帯で、近年は人口、世帯数ともに微増傾向で推移している。

交通は、市の中央を JR 高崎線、中山道と国道 17 号が南北に、県道川越・栗橋線が東西に、東部を上越新幹線が通っている。バス路線は、東武バスが桶川～菖蒲間、桶川～川越間の 2 路線を運行し、市内循環バス「べにばなGO」が 4 路線を運行している。現在、上尾道路、圏央道等の計画が進められている。

従来の商店街は、東口駅通りと旧中山道沿いを中心に形成されていたが、昭和 63 年に駅西口へメインがオープンした後、平成 4 年には幹線道路沿いにヤオコーがオープン、平成 12 年には西 2 丁目地内にマルエツやラオックス、トイザラス等が出店するマメトラショッピングパークがオープンした。このため、顧客の市外への流出には歯止めがかかった模様であるが、基本的には東京都心・大宮等のより高度な商業地の商圈に包括され、顧客の増大を図ることはきわめて困難な現状である。

近年市内各所で土地区画整理事業が施行され、既に鴨川、朝日、東部工業団地、神明、若宮が完了し、現在は下日出谷西、上日出谷南、坂田東、坂田西、下日出谷東が施行中である。このほか、桶川駅周辺地区の整備や、市東側に工業団地を造成して新規企業の立地促進にも努めている。また、「紅花の郷桶川市」をキャッチフレーズに「べに花まつり」の開催や「紅花染め」「紅花まんじゅう」等、紅花をシンボルとしたまちづくりを推進している。

平成 15 年 2 月 17 日作成